

元祖

モノノモ! 唐店

WEB版

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校 読書だより

新しい「モノノモ! 唐店」
はじまります。

第2話 R02.04.14(火)
「隠された誰も知らない
真実を探って。」

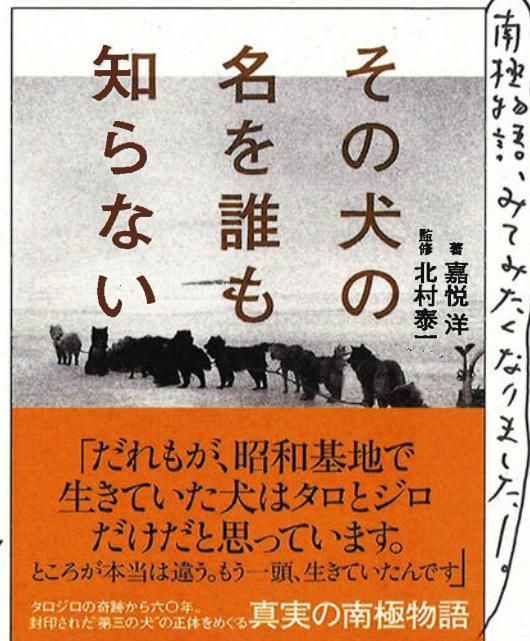
★今回、紹介する本は、『その犬の名を誰も知らない』
(著/嘉悦洋、監修/北村泰一、出版/小学館集英社プロ
ダクション)です。

みんなは、映画『南極物語』は知っているでしょうか? または、昭和基地で過ごしたタロとジロという犬の名前は聞いたことあるでしょうか?

南極の観測隊に同行した約20匹の樺太犬。ある事情から、その犬たちは南極に置き去りにされ、一年後、タロとジロという2匹の犬が奇跡的に救出されます。

〔第39話〕

この本は、「実は、タロとジロ以外に生きていた犬がいた」という事実を知った著者が、南極観測隊の唯一の生き残りである北村さんに話を聞きながら、真実をつきとめようとする話。なぜか今まで隠されてきたこの事実を探る展開は、まるでミステリ小説を読んでいるかのよう。最後は、ちゃんと謎の答えが示されます。南極のすさまじい環境と、その中でたくましく生きていこうとする犬たちのドラマが詰まった1冊です。犬好きはぜひ。



「だれもが、昭和基地で
生きていた犬はタロとジロ
だけだと思っています。
ところが本当は違う。もう一頭、生きていたんです」

タロジロの奇跡から六〇年。
封印された「第三の犬」の正体をめぐる 真実の南極物語

